

墓地に関する市民アンケート調査実施結果について

1 実施内容

(1) 目的

家族観の変化やライフスタイルの多様化に伴い、葬送に対する考えや墓地の形態も多様化してきていることから、本市では、社会情勢等の変化も見ながら、市民の考えやニーズを定期的に把握し、墓地整備等へ反映していくことが必要であると考えています。

そこで、本市では、5年ごとに市民アンケート調査を行っており、前回の平成 24 年度調査に引き続き、今年度、改めて市民の皆さまから広く墓地に関するお考えやご要望をお聞きし、将来の墓地需要数や供給方策の検討などに活用することを目的として調査を実施しました。

(2) 実施期間

平成 29 年 8 月 10 日～9 月 11 日（33 日間）

(3) 調査手法

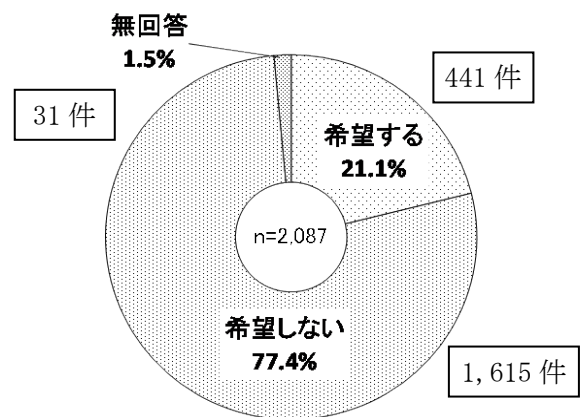
住民基本台帳リストから無作為抽出した、20 歳以上の市民 5,000 名に対し、郵送及びインターネットによる調査を行いました。

2 アンケート集計結果の概要

(1) 回収数 2,087 件（回収率 41.7%）

(2) 墓地需要率〔回答対象：全員（=2,087）〕

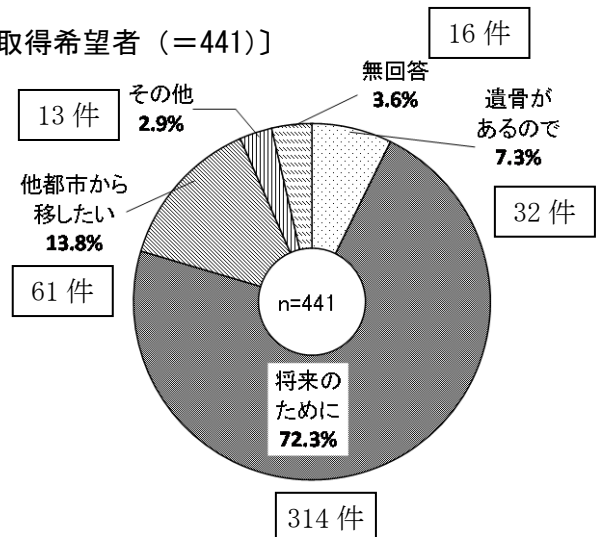
墓地の取得を希望する回答は、21.1%でした。



(3) 墓地の取得を希望する方の意向〔回答対象：墓地取得希望者（=441）〕

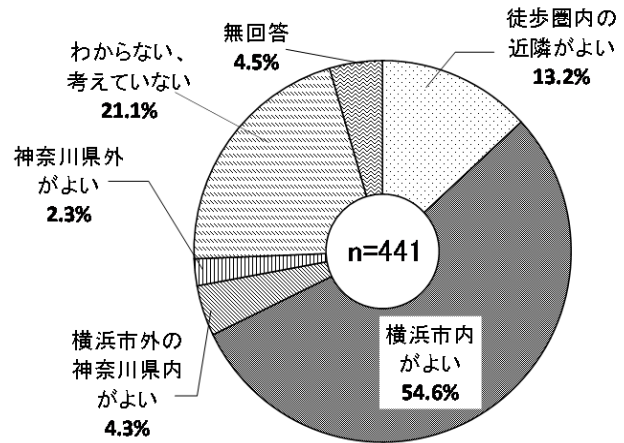
ア 墓地の取得を希望する理由

「遺骨はないが、将来のために取得したい」(72.3%)が最も多く、「遺骨があるので墓地がほしい」は、7.3%でした。



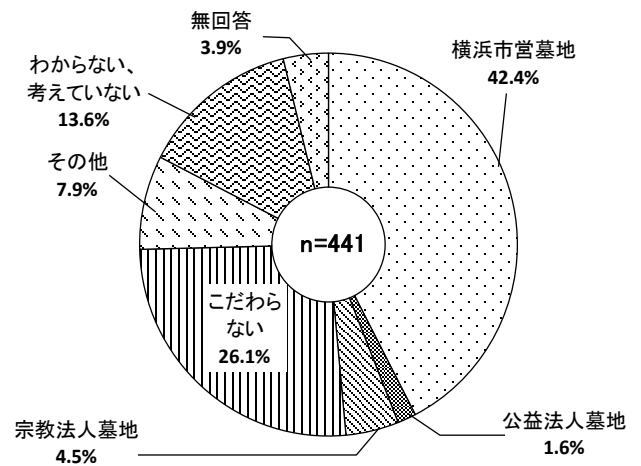
イ **取得したい地域**

「横浜市内がよい」(54.6%) が最も多く、「徒歩圏内の近隣がよい」(13.2%) と合わせると、約7割が市内等比較的近い場所を希望しています。



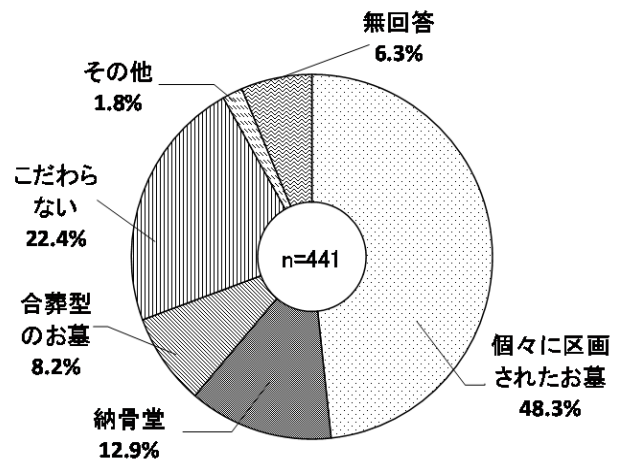
ウ **取得したい墓地の種類**

「横浜市営墓地」(42.4%) が最も多く、「こだわらない」(26.1%)、「わからない、考えていない」(12.9%)、がそれに続く回答でした。



エ **取得したい墓地の形式**

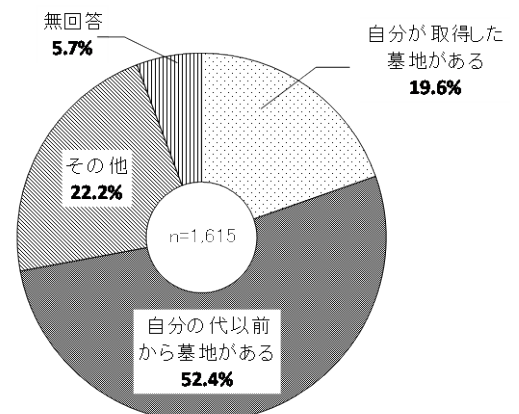
「個々に区画されたお墓」(48.3%) が最も多く、「こだわらない」(22.4%)、「納骨堂」(12.9%)、「合葬型のお墓」(8.2%) がそれに続く回答でした。



(4) 墓地の取得を希望しない方の墓地の状況

ア **墓地の取得を希望しない理由** [回答対象：墓地の取得を希望しない方 (=1,615)]

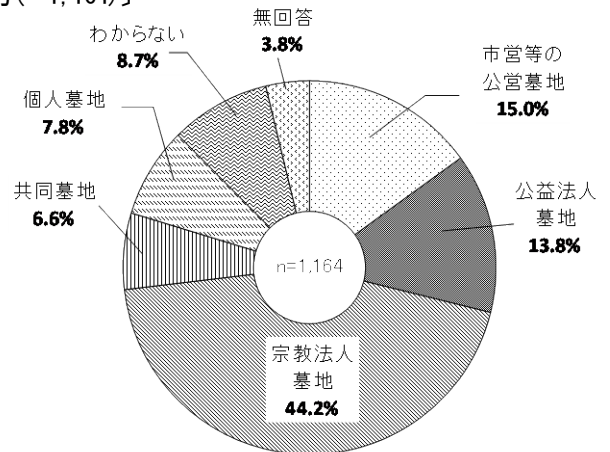
「自分の代以前から墓地があるため」(52.4%) が最も多く、「自分が取得した墓地があるため」(19.6%) を合わせた72.0%が、既に墓地を利用できる環境にあります。「その他」は、「お墓は不要だと考えている」、「まだ考えていない」といった意見が見られました。



イ **取得または利用している墓地の種類**

〔回答対象：墓地をお持ちの方及び利用できる墓地のある方(=1,164)〕

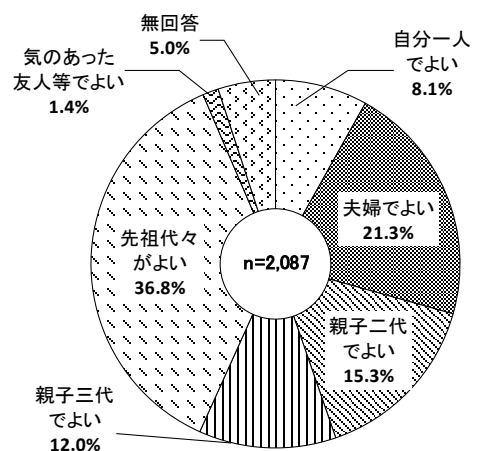
「宗教法人墓地」(44.2%)が最も多く、「市営等の公営墓地」は15.0%でした。



(5) 墓地を購入すると想定した場合の希望〔回答対象：全員(=2,087)〕

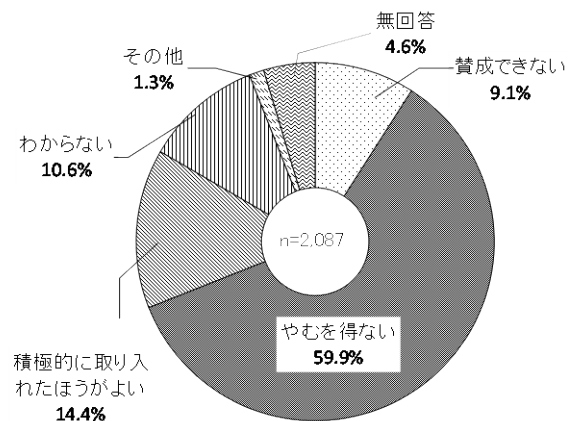
ア **墓地の使用範囲**

「先祖代々がよい」(36.8%)が最も多く「夫婦でよい」(21.3%)、「親子二代でよい」(15.3%)、「親子三代でよい」(12.0%)がそれに続く回答でした。



イ **墓地の使用期限を定める制度について**

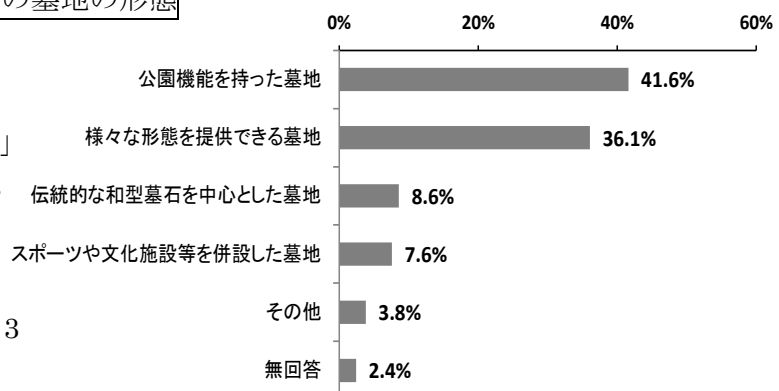
「やむを得ない」(59.9%)が最も多く、「積極的に取り入れたほうがよい」(14.4%)と合わせて約7割が使用期限を定める制度に理解を示しています。望ましい使用期限の長さは、「30年」(30.4%)と「60年」(31.6%)にそれぞれ約3割が望ましいと回答しています。



(6) 市営墓地の開発形態〔回答対象：全員(複数回答)(=2,709)〕

ア **今後、横浜市が市営墓地を計画する場合の墓地の形態**

「豊かな緑に囲まれ散策や憩いの場として利用できる公園の機能を持った墓地」(41.6%)にすべき、との考えが最も多い回答でした。



3 前回調査（24年度）との比較

・回収率が上昇しました。（今回 41.7% ← 前回 29.2%）

・取得したい墓地の形式が、多様化しています。

個々に区画されたお墓	（今回：48.3% ← 前回：60.6%）
納骨堂	（今回：12.9% ← 前回：8.6%）
合葬型のお墓	（今回：8.2% ← 前回：8.6%）
こだわらない	（今回：22.4% ← 前回：16.5%）

・墓地の使用範囲は、より狭い範囲を希望する傾向です。

自分一人だけでよい	（今回：8.1% ← 前回：4.8%）
夫婦でよい	（今回：21.3% ← 前回：18.3%）
親子二代でよい	（今回：15.3% ← 前回：13.4%）
親子三代でよい	（今回：12.0% ← 前回：11.8%）
先祖代々がよい	（今回：36.8% ← 前回：45.6%）

4 墓地需要数

推計には、横浜市墓地問題研究会（平成22年度開催）で用いた推計式を利用しました。

<推計式> ①現在必要数 + ②20年後までの将来必要数 = ③墓地需要数

	①現在必要数 =親族のみの世帯数×遺骨保持率	②20年後までの将来必要数 =推計死亡数累計×定住志向率×墓地需要率	③墓地需要数 =①+②
今回 H29 ～48年	15,789 区画 =1,052,606 世帯 × 1.5%	116,906 区画 =777,083 人 × 71.3% × 21.1%	<u>132,695 区画</u>
前回 H24 ～43年	13,510 区画 =1,039,243 世帯 × 1.3%	117,234 区画 =716,941 人 × 73.0% × 22.4%	130,744 区画

※1 各率の計算方法（数値はいずれも今回アンケート集計結果）

- ・「遺骨保持率」 1.5%…「遺骨があるので墓地が欲しい」選択（32件）／全回答（2,087件） 2(3)アより
- ・「定住志向率」 71.3%…「市内に住み続けたい」選択（1,488件）／全回答（2,087件） 報告書より
- ・「墓地需要率」 21.1%…「墓地の取得を希望する」選択（441件）／全回答（2,087件） 2(2)より

※2 平成48年までの墓地需要数 132,695 区画から、平成29年現在の供給可能墓地数 30,126 区画を差し引いた、102,569 区画が平成48年までの墓地整備必要数となります。